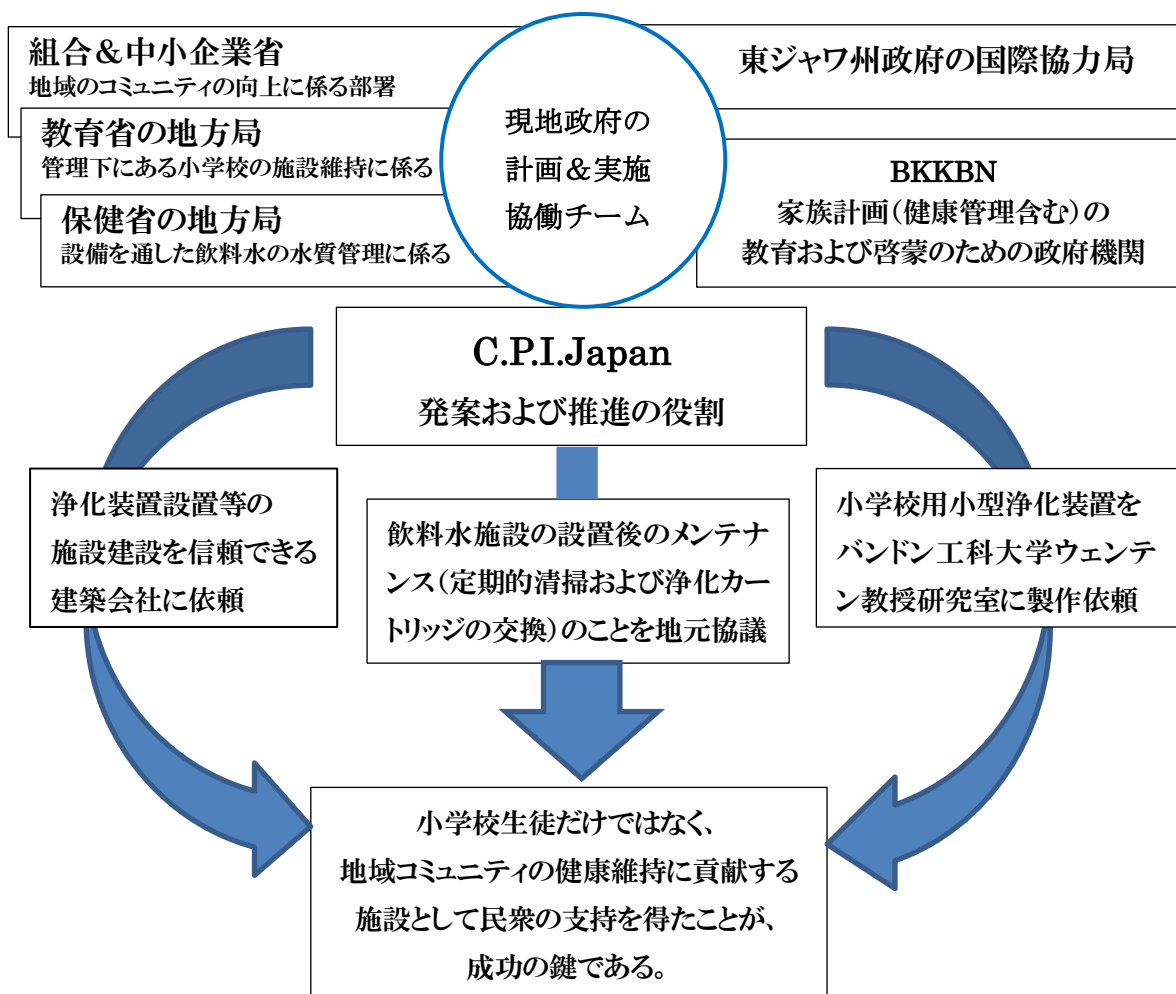




## 東ジャワの小学校への飲料水浄化装置設置プロジェクトを通じたコミュニティ開発事業

C.P.I. は、「学校の生徒に毒水を飲ませるな！」というテーマを掲げて、インドネシア内で飲料水浄化装置の施設プロジェクトを行いました。この事業において嚆矢とされるのは、地域コミュニティを包括する形での維持管理の仕組みを築いたことであり、プロジェクトを通じてコミュニティの結束を図るという成果を得られたことです。

本来、地域のコミュニティは、自分たちの子どもを学ばせる学校—とくに公立の学校を大切に守るものだと思いますが、インドネシアでは、そうではない場面が多くみられます。もちろん、コミュニティリーダーの方々は、「そのような悪しき慣習を一扫し、本来あるべき形を取り戻す文化を育てたい」と言われます。今回の施設設置事業は、金額は300万円と小さなものです。しかし、その効果は、波及効果も含めると大きな価値のあるものです。



インドネシアの地下水は飲料水として水質に課題を抱えている。本案件は学校における子どもたちへの健康問題を解決するとともに、表題にあるとおりの社会的ルールをあたりまえにすることを目標としました。

2015年3月、次の4点の条件を考えて慎重に進めたこのプロジェクトの、第一号機設置に成功しました。

- ① 民間の資金によって実現を図る。理由は、シナジー効果により多くの地域での企業 CSR 事業による同様施設の設置を図ることで、安心・健康な社会を築く文化を、日本からインドネシアに移着させること。
- ② インドネシア最高の浄水技術をもつパトシ工科大学ウェンテン教授のチームと組む。インドネシアには先進国で研究して成果を持ち帰られた高い技術をもつ方がおられるから、日本の運用・管理ノウハウとの協働プロジェクトにすることで、インドネシア政府との協定に沿う活動とすること。
- ③ 季節を問わず一定の水量の井戸水が得られることは必須条件であるので、慎重に調査すること。
- ④ 施設の竣工後のメンテナンスを地方政府、学校、地域コミュニティが合同で行う体制を築くこと。

第一号施設は、C.P.I.理事の宮原克平氏の所持する会社の CSR 事業として受託する形で、東ジャワ州シドアルジョ郡のブンチアン小学校で、平成27年3月31日に竣工することができました。

砂濾過⇒カーボン濾過⇒沈殿⇒化学フィルター2種類⇒セラミックフィルターで美味しい水に⇒バイオフィルタ⇒飲料タップへ。標準の20倍の塩分があった飲料水不適な水を、標準値以下の飲料水に変換できました。



ブンチアン小学校のエスティ校長先生と小西会長



機器を設置する建物



美味しい水に喜ぶ子どもたち



左からメンテナンスの責任者である教育局ジョコ局長、寄付者の宮原氏と、ブンチアン学校長



東ジャワ州政府で共に苦労して下さったデディ氏と学校の責任者たち。



地域住民の使用も OK!



大型浄水施設をコンパクトにした、学校施設用の浄水機器